

CLAIR トピックス

——最近のクリアの動きを短くまとめて紹介します



ソウル事務所

2019 朝鮮通信使祭りの開催

5月3日から6日の4日間、韓国・釜山広域市を代表するイベントの一つで、日本との文化交流を象徴する「2019 朝鮮通信使祭り」が韓国釜山広域市龍頭山（ヨンドゥサン）公園などで開催されました。日本からは、長崎県、対馬市、下関市、静岡市など、朝鮮通信使にゆかりの複数の自治体や団体が参加しました。

今年度は「過去を通じて未来へ」をテーマとして、3日には、国立国楽院で国際学術シンポジウムが開催されたほか、通信使をテーマとした演劇が披露されました。

また、4日には、朝鮮通信使平和の行列をはじめ、2018年に韓国の国立海洋文化財研究所により復元された通信使船（木造船）の出港セレモニー・観光物産展やストリートライブなどが行われ、日本から参加した下関市の菊川よさこい連合や広島県の阿波踊り連「広島紅葉連」など、多くの団体が会場を盛り上げました。

その他、釜山港では、通信使船の乗船体験もあり、通信使の歴史や木造船の製造工程などを紹介する船内のパネルや映像が乗船者の注目を集めました。

なお今年は、今回の釜山でのお祭りを皮切りに、日本においても、交流行事などが計画され、8月の「対馬厳原港まつり」では、日本で初めて通信使船が入港する予定です。



復元された朝鮮通信使船（木造船）



朝鮮通信使行列の再現パレード



ニューヨーク事務所

「JAPAN DAY @ セントラルパーク 2019」が 開催されました！

5月12日にニューヨークのセントラルパークにて「JAPAN DAY 2019」が開催されました。日米の文化理解を促すとともにニューヨーク市への感謝を示すため、2007年から実施されています。ステージではよさこい踊りや和太鼓の演奏が披露され、ブースではよさこい踊りや和太鼓の演奏が披露され、ブースではお好み焼きやおにぎりが無料で振舞われました。浴衣の着付けや歌舞伎役者風フェイスペインティングなどの体験型ブースもあり、その中でJETAA ニューヨーク支部と Japan Society はヨーヨー釣りのブースを共同出展しました。当事務所からも12人がボランティアスタッフとして参加し、初めてヨーヨー釣りを体験する来場者に、うまく釣るコツを説明しながら交流しました。子どもだけでなく、本気で楽しむ大人の姿も見られました。



JETAA ニューヨーク支部のメンバー

広島市長が 国連国際学校で講演

4月30日に松井一貫（かずみ）広島市長がニューヨークにある国連国際学校を訪問し、高校2年生の生徒約130人に対してプレゼンテーションを行いました。1945年8月6日に広島に何が起きたか、その後の被爆者の苦しみや彼らの平和への願いなどについて講演し、普段の生活の中で平和の尊さを実感し、その平和な市民生活を維持するために個人レベルで何ができるかを考えてみてほしいと生徒に伝えました。

今回、松井市長は2020年NPT再検討会議第3回準備委員会への出席のため渡米しており、国連本部でも各国代表へ核軍縮・不拡散措置を訴えるスピーチを行いました。



国連国際学校での講演の様子



北京事務所

春の交流会にクレアブースを出展しました

5月16日、北京市の日本大使公邸において「大使公邸春の交流会」が催され、クレア北京事務所は各地域のPRブースを出展しました。

この交流会には、12の地方自治体と60余りの企業等がブースを出展。来場者は900人近くを数え、日本酒の試飲を楽しんだり、特産品等を見て回るなど、会場は大いに賑わいました。

また、クレア北京事務所は大使館と協力して、地方自治体から提供された各地の工芸品やゆるキャラグッズなどが当たる抽選会を実施し、会場を盛り上げました。

※出展地方自治体：山形県、福島県、茨城県、新潟県・市、福井県、静岡県、熊本県・市、鹿児島県、沖縄県、札幌市



抽選会場の様子



地方自治体パンフレットを手に取る来場者



シドニー事務所

「豪州多文化主義政策交流プログラム」参加者募集！

豪州多文化主義政策交流プログラムを今年度はメルボルンで開催します。本プログラムは、全住民の約4分の1が海外生まれというオーストラリアにおいて、多文化主義政策による先進的な取り組みについて学び、日本における多文化共生に対応した地域づくりや、地域の国際化政策の企画立案などに役立てていただくことを目的に開催しています。今年度は、教育、コミュニティ支援、雇用・就労支援、通訳、防災、医療等に関する施策や取り組みを展開する現地政府機関や教育現場等を訪問する予定です。

研修期間：2019年11月18日(月)～23日(土) (6日間)

申込期限：2019年8月30日(金)

今年度の実施要領や昨年度までの報告書は、多文化共生課のホームページ (<http://www.clair.or.jp/j/multiculture/jiam/page.html>) をご覧ください。その他、プログラムについて不明な点がございましたら、クレアシドニー事務所 (Tel: +61-2-9241-5033) までお問い合わせください。



昨年度の様子



昨年度の様子



パリ事務所

新潟市・ナント市姉妹都市提携10周年—文化から経済、政策まで発展する交流—

パリから2時間ほど西にあり、フランスで最も住みたい街・創造都市でも有名なナント市では、今年、新潟市と姉妹都市提携10周年を迎え、5月15日には、市民団とともに訪問した中原一新一潟市長が、ジョアナ・ロラン ナント市長と今後の交流などについて会談するとともに、記念事業「WE LOVE NIIGATA NantesそしてNiigata - Japon : 10 ans!」に参加しました。同事業では、新潟市を紹介する写真展や新潟市の和食料理人である佐藤大介氏による和食、総踊りやマンガなど市民の活動を通じて、同市の多様な魅力がナント市民に披露されました。

あわせて、ナント市で5年に1度開かれるフランス最大の花の国際博覧会「ナントフロラリー」にも、新潟市は「潟とともに生きる精神：蓮」をテーマとして出展、多くの観覧者を魅了していました。

ナント市でのジャポニスム2018公式企画『「伝統と先端と」～日本の地方の底力～』でも、新潟県産米のおにぎりのワークショップを実施するなど、新潟市はナント市との積極的な交流を行ってきました。さらに、今回、中原市長は、文化交流を引き続きより活発にするとともに、ロラン市長から提案された経済交流などさまざまな分野での交流を進めていきたいとし、これからの交流の発展が大変期待されます。



写真展会場で現地TV局のインタビューに答える中原市長と通訳するイブライム・ダイエ国際交流員



記念植樹後に握手を交わす中原市長(右)およびソブザック副市長



ロンドン事務所

アイルランドで観光PR、旅行に関するアンケートを実施

4月7日にアイルランド・ダブリンで開催された日本文化紹介イベント「エクスペリエンス・ジャパン」に出展し、各地域の観光情報を紹介しました。来場者の中には仕事や旅行で日本を訪れたことがある人に加え、ラグビーワールドカップ2019日本大会を見に来る予定の人もあり、日本への関心が高まりつつあることが感じられました。観光資源では桜に興味を持つ人が多く、桜の時期や、どこの桜がよいかなどの質問も寄せられました。

来場者にヨーロッパ旅行と日本旅行に関するアンケートを行ったところ、ヨーロッパ旅行の時期は5～8月が多く、11～2月の冬の期間中にヨーロッパを旅行する人は少ないことがわかりました。滞在期間は1～2週間、予約は遅くとも旅行の3～6カ月前までに行う人が圧倒的に多いという結果でした。一方、日本への旅行を計画する場合、訪問時期は4月がもっとも多く、続いて8～9月、滞在期間は2～3週間で、予約は旅行の6カ月前～1年前に行う人が多いことがわかりました。宿泊費はヨーロッパ旅行、日本旅行とも大きな違いはなく、どちらも1泊1万円前後に抑える傾向がみられました。詳しい調査結果はクリアロンドン事務所のホームページをご覧ください。

https://www.jlcc.org.uk/jp/economy_exchange/ej2019/
このほか会場では日本食販売ブース、盆栽や生け花の作品展示などがあり、着物・浴衣体験コーナーでは多くの人が着物・浴衣姿での写真撮影を楽しんでいました。

「エクスペリエンス・ジャパン」は今年で10周年を迎え、アイルランドと日本の相互理解がますます深まっていくことが期待されます。



クリアブースの様子



着物・浴衣体験コーナーの様子



シンガポール事務所

「北九州市・姉妹都市締結5周年記念訪問団」がベトナム・ハイフォン市を訪問!

5月10日から12日まで、北橋健治北九州市長をはじめとする「北九州市・姉妹都市締結5周年記念訪問団」が、ベトナム・ハイフォン市を訪問しました。北九州市とハイフォン市は2014年に姉妹都市を締結してから、今年で5周年を迎えます。両市はこれまで市長などによる相互訪問のほか、ハイフォン市での高度浄水処理技術「U-BCF」の導入や環境マスタープランづくり（「ハイフォン市グリーン成長推進計画」）に北九州市が協力するなど、幅広い分野での交流を行ってきました。今回、姉妹都市締結5周年を記念して、北九州市内の文化団体を含む訪問団がハイフォン市を訪問し、さまざまな分野で両市の交流を深めると同時に、文化交流会のステージにおいて北九州市のPRを行いました。特に、北九州市の文化団体による、ハイフォン市の街中に咲き誇る火炎樹をイメージしたオリジナル舞踊をはじめ、満開の桜を演出した書道と舞踊のコラボレーションなど、両市を表現したパフォーマンスは大変好評で、「北九州市」の名前をハイフォン市民に強く印象づけることができました。また、今年8月には北九州市で開催される「わっしょい百万夏まつり」に、ハイフォン市から伝統芸能「蛇踊り」のグループが参加するなど、双方向での文化交流が行われる予定です。

今回の訪問では、ハイフォン市内の高校で日本語を学ぶ学生のために日本に関する書籍の贈呈を行ったほか、ハイフォン市内最大の工業団地であるディープシー工業団地と北九州市内企業進出に関する覚書調印式なども行われ、非常に実りある訪問となりました。これを機に両市の関係がより深まっていくことが期待されます。



文化交流会で踊りを披露する北九州市の文化団体



書籍贈呈式でスピーチを行う北橋健治北九州市長

